

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0372400069		
法人名	社会福祉法人 マキバの会		
事業所名	グループホーム杜の家 自遊舎		
所在地	岩手県和賀郡西和賀町沢内字貝沢4-98-3		
自己評価作成日	平成21年10月20日	評価結果市町村受理日	平成21年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0372400069&amp;SCD=320">http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0372400069&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19番1号
訪問調査日	平成21年10月30日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

開設当初からターミナルケアに取り組んできました。その実績を活かした更なる工夫をし、本人、家族にととの幸せとは何であるかを追求していくように心掛けています。
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

1. ターミナルケアを職員一丸となって取り組んでいる。医療機関との連携も密である。
2. 火災防止に対する消防機関との連携が図られている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	終末期をどう過ごすか、支援していけるかを念頭にいれ、それに伴いどう生きるかを基本に据えて、話し合いを実践につなげていく努力をしている。	開所以来11人の方を本人と家族の希望で、ホームで看取り、ターミナルケアを基本としているが、地域の中で暮らし続ける内容に触れていない。終末期までどう生きるか支援するか等に加えて、事業所独自に作り上げる具体的理念を掲げてほしい。	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスを理念としてほしい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育所園児、小学校児童、婦人会の方が訪れ交流があり、それぞれの催しものに参加している。	地域の婦人会はホームに訪問して交流をしている。保育園・学校・老人クラブ等から行事への招待案内があり、年間10回位参加している。ミズキ団子作りでは、利用者が指導をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の保険活動の研修などで話せる機会、又福祉を学ぶ学生に話す機会をえている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かす努力をしている。	利用者の家族会員が委員となっており、直接的な意見が聞ける。意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者より協力をいただいている。	運営推進会議へ委員として出席している。ホームの周囲までの除雪、消火栓の設置等ホームの要望が受け入れてもらえる関係作りがされている。スプリンクラー設置の助成を申請中である。今後は、町職員の研修場所として提供したい希望がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の戸締り以外は施錠をしておらず、車イスは移動手段として使っている。	施設長が必要と思われる事項を「社の家自遊舎版マニュアル」として作成し、職員研修に活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のストレスなどに敏感になるよう心がけ、防止についての話し合いを常にもつようにしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム 杜の家自遊舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用を促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	学生の研修などを通し、家族の聞き取り調査を行い、運営にいかしている。	県立大学の学生が研修に来た時に、学生が利用者の自宅を訪問し、家族から聞き取り調査している。家族の本音が出てくる。それらを運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全員が一同に集まり話合える機会を多くもつようにしている。	スタッフ会議、(毎月1回開催)申し送り、職員会議の場で意見が出される。日常サービスの中から利用者の声を汲み上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアとやりがいが同時に向上して、給与に反映されるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個性や力量に合わせた研修を選択して研修するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所から積極的に働きかけをしていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築く大切な時期であり、言葉にならない要求も見逃さないような努力をする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望に沿う為、必要な事を実行している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケースbyケースをモットーとしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることを見つけてあげる事が、職員の仕事だと考えて実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にとって家族がいかに大切な存在であるかを伝える努力をいつもしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参り、兄弟の家、友達の家など必要に応じ、連れて行く。	家族と連絡を取りながら、利用者の希望を受け入れている。床屋へ行きたい時など、職員が送迎することが多くなってきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	聴こえの悪い人の隣に座って通訳したり、閉じこもりがちな人の部屋へ訪問したりする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々に応じ、支援に努めた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉にならない思いを受け止める感性を持つべく話し合いをしている。	毎朝、必ず利用者全員の顔を見て、健康状態・体調を観察している。本人本位に接することを常に心掛けている。朝の挨拶は、1人ひとりの目を見て行い、利用者本位に対応することを習慣化する指導がされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの共有に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気付きメモの中に記して共有し、ケアに活かしていく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と計画について、話し合うことが多く、協力をいただいている。	ケアプラン見直しには、家族も同席してもらおう。家族のいない方が3人いらっしゃるが、身元支援者の方をお願いしている。聞きとりをすることで、見えなかったことが見えてくることもあるため、家族との対話を大切にしている。また、面会時の話し合いの中から意見を引き出している。具体例を示して、課題を見出すようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は内容、必要に応じて様式を工夫し、統計をとり、見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能とは言えないが、その時々で、柔軟に対応している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム 杜の家自遊舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校児童、婦人会、地区の老人クラブとの交流をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の了解を得て、かかりつけ医を決めて、連携している。居宅療養管理指導を受けている。	家族の了解を得て、かかりつけ医を決めている。日常のバイタルチェックの内診と診療後のアドバイスも受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	居宅療養管理指導の中で、医師、看護師と信頼関係を築き適切に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との話し合いと協力により、長期入院を防ぎ、又、早期リハビリも計画的に出来た。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	徘徊の激しい方について、地域に協力していただいた。ターミナルケアを職員一丸となって取り組んでいる。	家族・病院との連携を密にし訪問看護を活用しながら終末期をどう過ごすか、支援していかせるかを念頭に全職員で努力している。開設以来11名について話し合いを持った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急対応の訓練は、定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難用グッズを揃えた。	施設として揃えるべき防災用設備は実施済、夜間を想定した訓練も2回実施した。近隣の消防団員とは常に関係を図っている。スプリンクラー設置予算申請中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し合いをし、研修もしている。損ねた時には、注意するよう心掛けている。	方言を使って良い時、いけない時の確認、また施設長が(職員対応等で)気づきがあった時は、自分がされて嫌なことを(職員自らに)体験してもらう。このことで、相手の気持ちが理解出来るようになる。説明をして全員で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	経験豊富な職員が、若い職員へ指導するよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の初めに体調を把握し、話す時間を持てるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさが出るように、家族にも協力を求めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限り参加してもらい、役割を持ち、その事で生きることの喜びを感じてもらおう。	産直への買出し、下拵え、後片付けなど能力を有する部分は発揮してもらっている。牛乳は利用していないで豆乳を飲んでいる。旬の野菜を豊富に使っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員全員が理解し、同じ支援が出来るように、図を描いて示し、共有する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ずつケアの仕方が違っているが、必要に応じて変化させている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム 杜の家自遊舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	手すりの設置、ポータブルトイレの利用など、出来る限り気持ちよく排泄できるような支援をしている。	必要に応じてオムツ(リハパン3名使用)使用しているが、自立にむけた支援に取り組んでいる。水分は1日1,300~1,500ccを目標にしている。あえて、和式のトイレも用意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれに合った予防策を講じ、なるべく薬に頼らないようにしている。薬減らしをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の日は決めているが、その時々々の気分を尊重できるように、伺いをたてるようにしている。	利用者の体調を考慮しながら、対応している。着替えは入浴時等も自分で交換されている。(入浴)拒否の強い方には、足浴、清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の時間やパターンは、本人が自由に決めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を把握する担当者がいるが、用法については、全員が理解し、症状を医師に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の話し合いの中から、楽しみごと、暮らしぶりの様子を聞きだし、今の生活に活かす努力をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を家族に伝え、協力してもらっている。家族が出来ない時は、了解をもらいながら、それを支援している。	一人で外出可能な利用者は3人である。家族と外出したり、家族が出来ない時は了解を得ながら職員が支援している。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム 杜の家自遊舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持の能力のある方は、本人が管理している。本人の考えで、使うことが出来ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けるように依頼があった時は応じていて、家族、本人の希望を大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の気付きを大切にして、その都度、必要と思われることを話し合い実行している。	吹き抜けの共用空間には、薪ストーブがあり太い煙突、大きなテーブルとイス、長座布団に横になり談笑している。木がふんだんに使われていて落ち着いた気持ちになる。昔の家具が置かれてあり家の雰囲気が感じられる。一般家族の雰囲気があり、利用者の表情が気持ち良さそうに見えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を2ヶ所置き、思い思いにくつろいでいるようである。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所当初に家族に理解してもらい、持ち込むように協力してもらっているが、本人が慣れるにしたがって、その気持ちが薄れていく傾向にある。	重要事項説明書やパンフレットでも記載してあるように、仏壇と位牌、テレビ、電気コタツ、イス、テーブル等ご本人の使い慣れた物や好みのものを多く持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって何が必要か不必要かを話し合う事を大切にし、個別の工夫をしていくように心掛けている。		